

# キャリア教育新聞

No.16

2026年5月  
発行

共創共学  
プラットフォーム  
(塩尻市教育委員会委託事業)

## 「特別な活動」から「日常の土台」へ キャリア教育の意識をソフトチェンジする

キャリア教育に対して、現場からは「忙しい日々の業務に、また一つ新しい活動が増える」といった声が聞かれることがある。その背景には、キャリア教育を「特定の時期に行う、特別なプログラム」として捉える意識が少なからず存在しているのではないだろうか。

これまで私たちが取り組んできた進路指導や職業調べといった「マッチング」を重視するアプローチは、子どもたちの進路選択を支える重要な要素であり、決して間違いではなかった。しかし、ITや自動化技術が急速に進化する現代社会において、その職種に向く子どもへのパーソナリティや特定の知識や技能習得に向かわせる指導だけで、子どもたちが一生通用する力に身につけることには限界が来ている。

今、私たちに求められているのは、マッチングから「志(こころざし)」の探究への抜本的な転換である。「何のために働くのか」「社会の中で自分はどうかありたいのか」という問い、すなわち個人のパーパス(存在意義)を重視する姿勢こそが、変化の激しい時代を生き抜く「生きる力」の根幹となるからだ。

強調したいのは、キャリア教育は何か「特別な活動」を新たに追加することではない、という点である。キャリア教育の場合は、学校教育のすべてに広がっている。

全教科の授業、学級経営、そして日々の何気ない関わり——そのすべてがキャリア教育のフィールドだ。子どもたちは日常の経験を通じて自分の存在を認め、役割を見出し、他者への共感を育んでいく。その繰り返しの先にこそ、社会での「ありたい姿」が形成されるのである。

鉄棒に触れたことのない子どもに、いきなり「逆上がり」を求めることはできない。日常の教育活動の中で「自分はどうありたいか」という視点を子どもたちに示し続けてこそ、将来の進路選択というハードルを軽やかに超えていけるはずだ。

キャリア教育の真の土台は、日々の教育活動の中にこそある。学校全体を温かな学びの場として、子どもたちが自らの手で「生きる力」を育んでいけるよう、キャリア教育の意識をソフトチェンジが求められる。



## 共創共学プラットフォームメンバー紹介



NPO法人 MEGURU  
加知那緒

NPO 法人 MEGURU  
で地域人材コーディネートターを  
している加知那緒です。私は「地域の人事部」をテーマに法人の人的資本経営の推

進や個人の多様なキャリア形成を地域ぐるみで支援しています。私は、子どもたちが自分の好きや得意に気づき、さまざまな挑戦を通して、自分が納得したキャリアを選択できるように、そして地域全体で、一人ひとりのチャレンジを応援できる環境をつくっていききたいという想いで活動しています。相談窓口として、先生方と同じ目線で、子どもたちの未来について考えていけたら嬉しいです。

### ○活動の目的

生徒が働くことや生きることを自分事として捉え、将来のキャリア形成につながる企業見学・職場体験プログラムを、小中それぞれの役割を意識して研究・設計する。

### ○活動のねらい

小中の委員が共にキャリア教育について考え、小学校での学びが中学校へつながるよう、発達段階に応じた連続性のあるプログラムの在り方を探る。

### ○活動の成果

小中それぞれで授業案が作成された。また、キャリア教育の視点が企業見学や職場体験にとどまらず、普段の授業の中でも活かせることが共有された。

## 企業見学・職場体験研究部会

### ◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人 MEGURU)  
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線 3112)